

第2回

青森県言語聴覚学会

原点から

進化へ



一般社団法人 青森県言語聴覚士会

## 01 学会日程

| 時間          | 第1会場                                                                                                                                                                                                        | 第2会場                                                                                                                         |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:00        |  <b>受付開始</b><br>日本言語聴覚士協会 内山 量史会長からのビデオメッセージ                                                                               |  <b>ポスター掲示</b><br>9:00～9:30               |
| 9:30～9:45   |  <b>開会式・大会長挨拶・来賓挨拶</b>                                                                                                     |                                                                                                                              |
| 9:50～11:00  |  <b>招待講演</b><br>「摂食嚥下リハビリテーションの原点と進化<br>ーエビデンスに基づく最新訓練手技の最前線ー」<br>座長：塩谷 大 演者：福岡 達之                                         |  <b>ポスター／掲示・書籍等自由閲覧</b><br>9:30～11:15     |
| 12:20～12:40 |  <b>若手ST向け企画</b><br>若手STのための部局紹介                                                                                           |                                                                                                                              |
| 12:50～14:00 |  <b>教育講演</b><br>「自閉スペクトラム症（ASD）の言語習得を再考する」<br>座長：山田 大介 演者：松本 敏治                                                            |  <b>ポスター発表</b><br>座長：浅田 一彦<br>11:15～11:45 |
| 14:15～15:15 |  <b>シンポジウム</b><br>「多角的な視点でつなぐ小児STの支援<br>ー各フィールドの役割と連携のカタチー」<br>座長：須藤 美香<br>シンポジスト（基調講演）：松田 輝美<br>シンポジスト：阿部 修人、工藤 瞳子、古内 洋 |  <b>ポスター／掲示・書籍等自由閲覧</b><br>11:45～15:20  |
| 15:30～16:30 |  <b>口述発表</b><br>座長：奥山 淳子                                                                                                 |                                                                                                                              |
| 16:30       |  <b>閉会式・閉会の挨拶</b>                                                                                                        |                                                                                                                              |

## 02 一般演題プログラム



### 口述発表

 2026年10月4日（日） 15:30-16:30  
 第1会場 | 弘前医療福祉大学 4F セミナーホール

- O-1** 低栄養状態の胸部食道癌患者への介入を通しての学び  
藤森 陸  
(つがる西北五広域連合 つがる総合病院 リハビリテーション部)
- O-2** 青森県内の言語聴覚士がかかえる方言にまつわる問題  
須藤 美香 (弘前医療福祉大学)
- O-3** ESP療法とバルーン拡張法の併用が奏功した  
重度Wallenberg症候群の一例  
葛西 未来 (津軽保健生活協同組合 健生病院 リハビリテーション科)
- O-4** 言語聴覚士が訪問リハビリで介入し児の利用する  
全ての食事環境を統一したことで、捕食及び上肢動作が  
向上した一例  
古内 洋 (あすみ訪問看護ステーション)
- O-5** 高度救命救急センターにおける摂食嚥下障害患者へのST介入  
中山 佐織 (弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション部)



### ポスター発表

 2026年10月4日（日） 11:15-11:45  
 第2会場 | 弘前医療福祉大学 4F 142講義室

- P-1** 言語聴覚士による入院早期の評価の取り組み  
ーリハビリテーション・栄養・口腔管理の連携推進に向けてー  
竹内 典子 (津軽保健生活協同組合 健生病院 リハビリテーション科)
- P-2** 青森県言語聴覚士会 ー青森支部の活動についてー  
野呂 泰一 (青森保健生活協同組合 あおもり協立病院  
リハビリテーション科)
- P-3** 言語聴覚士による「ことばの相談会」2年間の実践  
ー相談内容からみた地域支援の課題ー  
西村 碧 (医療法人泰仁会 十和田第一病院)
- P-4** 透析室における言語聴覚士介入の現状と課題  
小寺 愛 (一般財団法人 双仁会 黒石厚生病院)
- P-5** 高次脳機能障害者の就労支援について  
齊藤 由佳 (メディカルコート八戸西病院  
在宅リハビリテーション支援科)

## 講演プログラム

### 03 招待講演



#### 『摂食嚥下リハビリテーションの原点と進化 —エビデンスに基づく最新訓練手技の最前線—』

**福岡 達之先生**

広島国際大学 言語聴覚療法学専攻教授

##### 【講演概要】

摂食嚥下リハビリテーションでは、運動訓練、感覚刺激、代償嚥下法など、さまざまな訓練手技が臨床で用いられてきた。近年では、運動生理学や神経可塑性、運動学習に関する理解が深まり、これまで経験的に行われてきた訓練についても、その作用機序や適応、有効性をエビデンスに基づいて再検討することが求められている。わが国でも摂食嚥下訓練に関する研究は蓄積されつつあり、システマティックレビューから一定の有効性が示される一方、質の高い臨床研究をさらに蓄積する必要性も明らかとなっている。また、嚥下評価も進化しており、超音波検査による嚥下関連筋の評価や、各種測定機器を用いた筋力・嚥下運動の定量化など、客観的・定量的評価の可能性が広がっている。

本講演では、咽頭期嚥下の病態と訓練手技との関係を整理する。さらに、舌骨上筋群の筋力増強を目的とした頭部挙上訓練、CTAR、開口訓練をはじめ、EMST、咽頭収縮筋群の筋力増強訓練、神経筋電気刺激療法（NMES）など、近年注目されている訓練手技について最新の知見を紹介する。摂食嚥下リハビリテーションの原点を振り返りながら、病態を的確に評価し、根拠に基づいて訓練を選択・組み合わせるこれからの臨床について考えたい。

### 04 教育講演



#### 『自閉スペクトラム症(ASD)の言語習得を再考する』

**松本 敏治先生**

教育心理支援教室・研究所 ガジュマルつがる

##### 【講演概要】

青森県津軽地方では、以前から発達障がいに関わる人々の間で、「自閉症の子どもは方言を話さない」という印象が経験的に語られてきました。これをきっかけに行ってきた一連の研究から、①ASD児・者の方言不使用という印象は北東北に限らず全国でみられること、②その特徴は発音やイントネーションだけでなく、方言語彙の不使用にも及ぶことが明らかになりました。

一方、海外でも、家庭で話されていない、あるいは地域で優勢ではない言語を優位に使用するASD児・者が報告されています。日本では共通語、アイスランドでは英語、アラビア語圏では現代標準アラビア語、モンゴルでは英語がそれにあたります。これらはいずれも、子どもが好むメディア・コンテンツで多く用いられている言語です。多くの事例では、特定のメディア・コンテンツの顕著な反復視聴がみられ、そこから言語を習得したと考えられています。従来、言語習得は人との相互作用を通して成立すると見なされてきました。しかし、ASD児・者の中には、それとは異なる情報入力経路を通して言語を習得する人がいる可能性がみえてきました。本講演では、そのような言語習得がどのような条件で生じるのか、ASDの認知特性とメディアからの言語入力との関係を踏まえて考えていきます。さらに、情報入力経路という視点から、TDの均質性とASDの多様性を説明するモデルについても紹介します。



## 『地域における子どもST 岩手の私の場合』

## 一般社団法人アクティビティいわて アクティブキッズ2

小児期の言語発達支援は医療・福祉・教育など多岐にわたるが、領域間の専門性や役割の違いが支援の断絶を生む要因となる場合がある。本シンポジウムでは、岩手県での取り組みや青森県内の実践報告を通し、小児期の支援における具体的な連携の在り方を検討する。各領域の視点を共有し、地域全体で子どもの育ちを支える「シームレスな支援体制」の構築に資することを目的とする。

医療法人泰仁会 十和田第一病院

NPO法人Sky  
こどもデイサービスセンターSky

## あすみ訪問看護ステーション

## 会場案内図

4F



アンケートにご協力をお願いします



駐車場

